

平成24年(2012年)9月発行

# いんぷおめーしょん information

(「くにたちのとしょかん」通号114号)

くにたち中央図書館

〒186-0003 国立市富士見台 2-34

☎042-576-0161

くにたち北市民プラザ図書館

〒186-0001 国立市北 3-1-1 9号棟

☎042-580-7220

<https://www.library-kunitachi.jp>

## 東日本大震災・福島原発事故から1年半

9月11日、東日本大震災から1年半が過ぎ、被災各地では死者を悼み、復興を願う様々なイベントがありました。甚大な津波の被害から元の生活を取り戻そうと懸命な努力を続ける人々を、NPOやボランティアだけでなく、経済界からもいくつかの企業が、地域の経済活性化にむけた資金調達などにも手を差し伸べているようです。被害の大きさから、目に見えてというわけにはいかないまでも少しずつ「復興」していくことに、『小さなことでもさらに何かできることはないか』と考え行動している人も多いのではないのでしょうか。

さて、もうひとつの甚大な被害、家を仕事を「放射線物質」に奪われ、いまなお避難生活を続けている人々がいます。その原因となった福島第一原発はいまどのような状況なのでしょう。「冷温停止」という政府の発表がありました。その「冷温停止」に疑問を投げかける科学者がいるのも事実です。

脱原発の世論や運動が高まる中、経済・産業の衰退を理由に原発維持の声もあります。数十年にわたって故郷に帰ることができない人々がいるという現実、半減期が数十万年に及ぶ核廃棄物の処理方法が未解決であるという最近の新聞報道。私たちは原発・核エネルギーの真実を学ぶ必要に迫られているのではないのでしょうか。

### 最近の新聞・雑誌報道から

消えた核燃料サイクル合意 「(プルトニウム)利用なくして再処理なし」 8/24 東京新聞

核のゴミ行き場なし 一時保管すら困難 9/4 東京新聞

「核燃基地六ヶ所村」ガラス固化試験大幅遅れ

核のゴミ封印、完成せず 9/6 東京新聞

核燃料プール、数年で満杯 6割が運転不可能に

9/4 東京新聞

「ウラン節約」ウソだった

再処理「原発維持のため」 9/5 東京新聞

学術会議が問題提起 核のゴミ 直視必要

9/15 東京新聞

核燃料サイクルは破綻している (日経ビジネスオンライン)



六ヶ所村再処理工場

## 最近の原発関連書籍

**科学ジャーナリストの警告 “脱原発”を止めないために 清流出版 2012.9 (発注中)**

科学ジャーナリスト塾塾長・林勝彦が、原発問題を考えるに当たり、真摯に取り組んできた科学ジャーナリストを人選し原稿依頼。NHKで原発問題に取り組んだパイオニアなどが伝えたかった、原発の真実。

**『技術と人間』論文選 問いつづけた原子力 大月書店 2012.4 (未所蔵)**

私たちは何を学ばなかったのか。現代技術と人間の関係を、あらゆる角度から問いつづけた稀有な雑誌『技術と人間』に長年携わってきた編者が論文を精選し、歴史的な経緯をもたどれるようにまとめた書。

内容：日本、そして世界の原子力開発小史／西尾漢著 ナショナル・プロジェクトとは何か？／高橋昇著 「むつ」乗船日記／雨宮正彦著 いま、原発内労働はどうなっているか／森江信著 原子力長期計画はまちがっている／星野芳郎著 原子力のエネルギーコスト／室田武著 原子力技術を考える／高木仁三郎著 原子力におけるエネルギーの諸問題／水戸巖著 巨大技術とフェイルセーフ／武谷三男著 葬られるスリーマイル島事故の真相／荻野晃也著 ECCSは有効に作動したか？／海老沢徹著 「もんじゅ」のナトリウム火災／小林圭二著 チェルノブイリ原発事故によるその後の事故影響／今中哲二著 JCO臨界事故とは住民にとって何であったか／相沢一正著 原子力発電所事故の被害額を試算する／朴勝俊著 原発重大事故の総括／正脇謙次著 微量放射線の生物学的・医学的危険性／市川定夫著 低線量被曝の危険性／ロザリー・バーテル著；中川保雄訳 CRP新勧告のねらい／中川保雄著 低線量放射線被曝の異常に高い危険性／山本定明著 原子力平和利用は故意の犯罪／槌田敦著 核廃棄物の海洋投棄は人間の危機／水口憲哉著 高レベル放射性廃棄物の地下投棄／生越忠著 地球を一周する日本の使用済核燃料／藤田祐幸著 放射性廃棄物の問題点／小出裕章著 ほかに12編／解題 福島第一原発事故と『技術と人間』／天笠啓祐著

**検証福島原発事故・記者会見 東電・政府は何を隠したのか 岩波書店 2012.1 分類：543.5**

どのように彼らは情報を隠し、深刻な事故を過小評価し、誤った説明を繰り返してきたのか。その責任はどこにあるのか。事故後、記者会見に出席し続けた著者が、膨大なメモと新たな取材をもとに、正面から検証に挑む。

**原子力その隠蔽された真実 人の手に負えない核エネルギーの70年史**

ステファニー・クック 飛鳥新社 2011.11 (発注中)

人間はいかに核の扱いに失敗してきたか。原発開発からチェルノブイリ、福島まで、30年以上にわたり原子力問題を追うジャーナリストが核心に迫る。福島第一原発事故を分析した「特別章」収録。

**原子炉時限爆弾 大地震におびえる日本列島 広瀬隆 ダイヤモンド社 2010.8 分類：543.5**

世界各地で頻発する大地震は何の予兆なのか。クリーンエネルギーとして推進されている原発は本当に安全か。「原発震災」がもたらす日本壊滅の危機に警告を発する

**「最悪」の核施設六ヶ所再処理工場 小出裕章ほか 集英社 2012.8 分類：S**

原発報道ではあまり語られないが、青森県六ヶ所村の「使用済み核燃料再処理工場」こそ、最も危険な存在である。プラントの欠陥、活断層の存在などを、第一線の専門家の知見を動員して明らかにする。

**図解原発のウソ 小出裕章 扶桑社 2012.3 分類：543.5**

世界最悪の事故は、まだ終わっていない。もう騙されてはいけない…。原発関連本売り上げ第1位の「原発のウソ」に、写真、図版、最新データを加えて再び警告。

**騙されたあなたにも責任はある 小出裕章 幻冬社 2012.4 分類：543.5**

この国に、もはや安全な食べ物はない。原発即時全停止しても、電力不足にはならない。3.11 メルトダウンから 1 年。次なる放射能拡散の危機が迫る。政府・保安院・東電の隠された大罪を信念の科学者は告発する。

**福島第一原発－真相と展望** アーニー・ガンダーセン 集英社 2012.2 分類：S

メルトスルーした核燃料を回収する方法などあるのか。大量に漏洩している放射能での被曝はどうなるのか。再臨界の可能性は…。フクシマの真相を、事故直後にレベル7を見抜いた米専門家が解説する。

**レベル7 福島原発事故、隠された真実** 幻冬舎 2012.3 543.5

高さ15メートルの津波、大量の放射性物質漏出、全電源喪失…。すべての危機は警告され、握りつぶされた。原発と日本人の関係を描き切った、圧巻のノンフィクション。

新聞記事などを調べていく中で、元駐スイス大使村田光平氏の参議院予算委員会公聴会（2012.3.22）での発言に行き当たりました。世界が日本の状況にいかんにか危機感を持っているか、知らないのは（知らされていない）のは私たち「一般国民」なのかもしれません。興味のある方はインターネットで探してご覧ください

## 今月のレファレンス

質問	回答
医療の法律についての本が読みたい	[498.12]の本を紹介。また、くわしく話してみると、医療事故について調べたいということだったので、[320.6]あたりで色湯事故が載っている資料を紹介した。 ・498.12『患者側弁護士と家族のための医療事故訴訟』（清文社） ・498.12『医療ミスでは？と思ったら読む本』（日本評論社）
富岡八幡宮の例祭（8月15日）について、様子や場所がわかる本が見たい	江東、深川、神輿、例祭というキーワードで書架をあたる。 ・291.36『江東区史跡散歩』（写生社） ・386.1『神輿大全』（誠文堂新光社） ・雑誌『散歩の達人』2012/4月号 など写真。解説あり。さらに今年の状況については電話での照会を勧めた。

調べごとなどはお気軽に図書館職員におたずねください。

## 図書館からのお知らせ

### ◆CDの貸し出し・予約点数が1点から2点以内になります

これまでCDの貸し出し点数はお一人1点でしたが、10月1日（月）より、国立市民および在勤・在学者にかぎり、CDの貸出し点数が2点以内に変更になります。

### ◆北プラザ図書館「読んでみませんか」コーナーより

北プラザ図書館は中央図書館に比し規模も小さいことから「顔見知り」のお客様の多いところですが、9月からの「読んでみませんか」コーナーは『**貧困・孤立・無縁—生きにくい時代を乗り越えるには—**』をテーマとし、関連資料を展示しています。年齢・性別を超え、多くのお客様が足を止め、資料を手にしていただいています。課題や問題を抱えている方が、何がしか解決のヒントを見つけ

出す場となればと考えています。また、簡単な展示資料リストも作成いたしました。必要な方は北プラザ図書館カウンターまでお声をかけてください。

#### ◆YA（ヤングアダルト）講演会（参加無料）

英国・アメリカ・オーストラリアなど英語圏の文学を多数翻訳し、また、児童文学研究者としても著名な金原瑞人氏をお招きし、講演会を開催します。

「翻訳」という作業は、異なる言語で表現されたものをただ単に日本語に置き換えるものではありません。直訳では微妙なニュアンスが伝わらないときこそ、翻訳者の感性や知識、経験などが生かされるようです。また、作品が翻訳される時代によっても、受け手である日本の社会状況や読者の価値観によっても違いが出てきます。さらには、翻訳者と読者の「相性」も。これは日本語で書かれた作品にも言えることですね。

今回は、事前に参加者がキーワードとなる一文を訳し、その「文言」を使って創作した短文を講評していただくワークショップも行います。講評は講演会の中でいただきます。

日 時 11月3日（土：祝日） 午後1時30分開場 午後2時開演

会 場 くにたち市民芸術小ホール スタジオ

定 員 ①ワークショップ参加希望の方 30名（申込先着順）

②お話のみ聞きたい方 30名（応募多数の場合抽選）

応募方法 ①ワークショップ参加希望の方

「I'm a boy.」を自分なりに訳し、その文言を使って日本語でエッセイか短編小説を書き、氏名・連絡先を明記のうえ10月12日（金：消印有効）までに中央図書館へ郵送、または持参してください。

②お話のみ聞きたい方は、中央図書館で9月7日から申込受付中です。

#### ◆大人のためのお話し会（参加無料）

図書館では、昭和49年の開館以来、ボランティアの協力を得ながら定期的に「えほんのじかん」「おはなしのじかん」を実施してきました。近年は残念なことに、塾通いの低年齢化に加え少子化などにより「おきゃくさま（こどもたち）」の減少が著しく、お客様ゼロの日もぽちぽちあり、関係者はとても残念に思っています。

そんな時こそ、子どもたちの近くにいる「大人」の方たちに「おはなし・語りの世界」を体験していただこうと、昨年に引き続き「大人のためのお話し会」を企画し、9月から毎月1回、市内各地で開催いたします。「大人向け」に準備された、聞きごたえのあるストーリーの数々、たっぷりとお楽しみください。お問い合わせは中央図書館まで。

	日 程	場 所
1回	平成24年 9月30日（日）	中央図書館（谷保第三公園内）
2回	平成24年10月25日（木）	北市民プラザ図書館（北市民プラザ内）
3回	平成24年11月21日（水）	谷保東分室（谷保東集会所内）
4回	平成24年12月21日（金）	下谷保分室（下谷保地域防災センター内）
5回	平成25年 1月25日（金）	青柳分室（青柳福祉センター内）
6回	平成25年 2月17日（日）	東分室（東福祉館内）
7回	平成25年 3月24日（日）	南市民プラザ分室（南市民プラザ内）

※いずれも開場は午後1時30分、開演は午後2時より